持続的な地域医療を確保するために

令和10年
秋
新病院
開院予定

新病院で取り組む〝緩和ケア〟

現在、令和10年秋の開院を目指し、新病院の建設工事が進められています。
今月は、新病院の新たな機能のうち〝緩和ケア病棟〟と、工事の進捗状況をお知らせします。

問合先　市立総合病院新病院整備室（9西7）☎22-1650



緩和ケア病棟とは

がんなどの重い病気を抱える患者が、病状の進行に伴い、治療から痛みや苦しさを和らげるケアへと移行し、自分らしい時間を過ごせるよう支援する病棟です。

また、医師や看護師が、身体的な苦痛だけでなく、心理的な不安や日常生活上の課題にも対応し、本人と家族の希望に寄り添ったケアを提供します。

緩和ケアチームが支えます

市立総合病院は、北海道がん診療連携指定病院として、がんの診断や治療、相談支援の他、医師や薬剤師、看護師などの多職種で構成する〝緩和ケアチーム〟が、体や心の苦痛に対応し、本人と家族の生活の質を高める支援をしています。

新病院は、こうした機能に加えて、南空知にはない〝緩和ケア病棟〟を整備することで医療体制の充実を図ります。

穏やかに過ごせる療養環境を整えます

新病院の緩和ケア病棟は、眺望が良い最上階（8階）に、全室個室で20床整備する予定です。個室にすることで、プライバシーに配慮しながら、落ち着いて過ごせる療養環境を確保します。また、家族が一緒に過ごす時間にも配慮し、本人だけでなく家族にとっても安心できる環境づくりを進めます。病棟内には開放的なデイルームを設け、入院中の時間をできるだけ穏やかに過ごせるような環境を整えます。

＼＼ いわみ記者が行く！現場リポート ／／



基礎工事と免震装置の設置が進み、建物を支える準備が整ってきました。地下1階の床部分では、コンクリートの打設も進み、いよいよ地上へと建物が積み上がっていきます。

新病院建設に関する最新情報は、市立総合病院ホームページをご覧ください。

